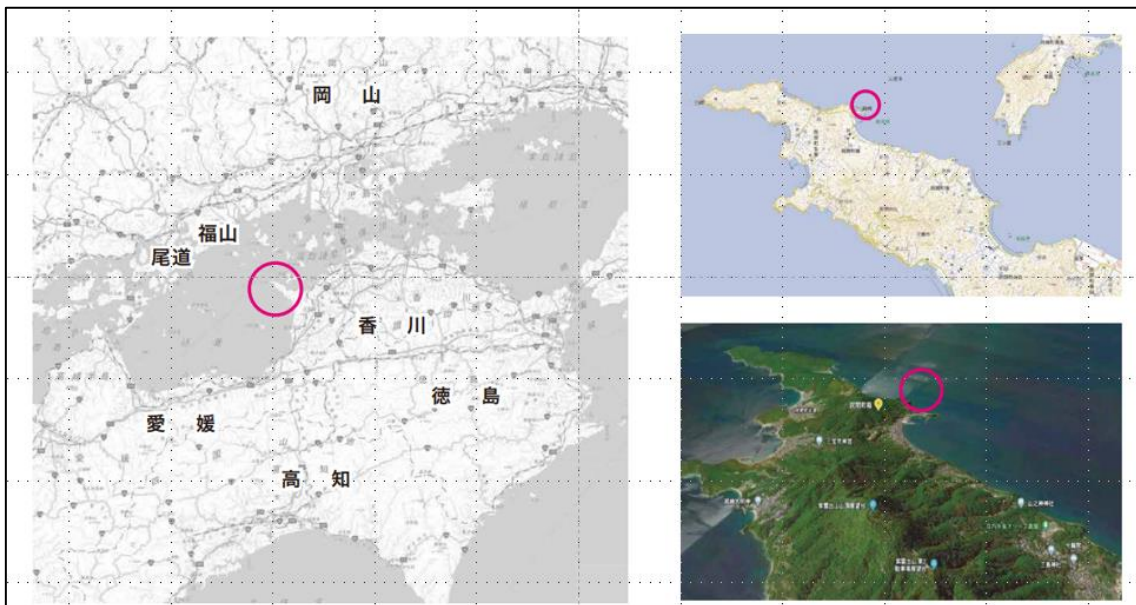


箱浦海岸版・海遊びガイドライン

I. 箱地域概要：

香川県三豊市詫間町箱。観光名所の紫雲出山を擁する荘内半島の東側の一集落。人口総数 255 人、世帯総数 105 世帯(2015 年)。かつては荘内半島の東側と栗島・志々島一带を浦島と呼んでおり、おとぎ話の浦島太郎伝説の中では浦島太郎が竜宮城から持ち帰った玉手箱を開けた地として「箱」と名付けられたとされている。



箱の位置図

II. 箱浦海岸概要：

香川県三豊市荘内半島の箱浦地区にある海岸。2022 年 6 月時点では遊泳禁止

区域ではないが、海水浴場にもなっていない。干潮時には約 30m の浜が現れ、満潮時には浜が満ちる。幅は約 100m。

海岸の手前には防潮堤があり、その手前の公園(箱崎公園)は私有地。海岸の逆側には港がある。



箱の風景



箱浦海岸の上空写真



防潮堤



箱崎公園

III. 箱浦海岸の海遊び：

1. 魚釣り

夏場はキス、年間を通じてチヌが釣れる。港の波止場からはアジ・サバ・イワシなどの青物のほか、時期によってはイカも釣れる。波止場から釣

る際に電線に釣り糸が絡まる事故が多いので要注意。

製氷機や氷の販売所が近くにないため、事前に用意して持ってきたほうがよい。

2. 海水浴

シャワーや足洗い場などがいないため、盆の時期以外は夏でも混雑しない。

瀬戸内海であるため大きな波は立たず、安心して遊ぶことができる。シャワーなどはないが、近隣の箱浦ビジターハウスは誰でも利用可能。

3. 磯遊び

海岸の端は磯になっており、時期によっては寒天の素になる天草やひじきなどの海藻、大潮の引き潮の時にはウニ、ナマコ、サザエ、アワビ、タコなどがいるが漁業権があるため拾うことは禁止されている。シュノーケル、水中めがね、マリンシューズがあると観察に便利。

4. SAP/カヌー/カヤック/ディンギーヨット

瀬戸内海特有の穏やかな波であることから安全に遊ぶことが可能。但し、カヌーやカヤックは船からの視認性が悪いため旗をわかりやすく立てたり、船の航路に近づかないように気を付ける必要がある。

5. そのほか：地引網

昔は子供たちを交えて地引網を行なったこともあったらしい。

IV. 海遊びの注意事項：

1. 安全に遊ぶために

(ア) ライフジャケットの着用



瀬戸内海は波が高くないが、不意にタンカー船などの大型船の引き波によって足元をすくわれることもある。離岸流によって一気に沖に流される事故もあるため、ライフジャケットを着用することを海遊びの約束としたい。海に入らない釣りであっても腰巻型のライフジャケットを着用すること。

(イ) こまめに水を飲む



遊びに夢中になるあまりに水分補給を忘れ、熱中症や足の痙攣が生じる場合がある。特に夏場では 30 分に 1 回程度の休憩を入れ、のどが渇く前の水分補給を心がける。

(ウ) 浜側からヨットの下に入らない



浮力と波によって簡単にヨットが持ち上がるものの、波が引いた時にヨットの下に体があると下敷きになって危険。

(エ) 滑走路の利用

港の滑走路は利用禁止ではないものの、港内侵入口が狭く漁船とすれ違う可能性があるため、利用するには事前に詫間漁業協同組合(0875-83-2016)への電話確認を推奨。

2. みんなで楽しく遊ぶために

(ア) ゴミは持ち帰る

箱浦海岸にはゴミ箱を置いていないので発生したゴミは必ず持ち帰る。特に波止場で釣りをする場合に風でゴミが飛ばされることが多いので要注意。

(イ) 磯の生物は持ち帰り禁止

磯には海藻やウニ、ナマコ、サザエ、アワビ、タコなどの生物がいるが、拾うことも持ち帰ることも禁止。観察のみ可。

(ウ) 挨拶をする

「海はみんなのもの」なので、ヨットをしている横で釣りを始めると釣り糸がヨットに引っかかる可能性がある。ヨットと釣りの場合に限らず、お互いに挨拶を交わし、事前にトラブルの原因になることは避けることを心がける。また、漁業従事者を含め地域の方の生活の場でもあるため、すれ違う人がいれば挨拶をする。

(エ) 立ち入り禁止区域

箱崎公園近くの漁協事務所の脇にある栈橋は一般の方は立ち入り禁止。港に係留されている船もちろん立ち入り禁止。

(オ) 駐車場

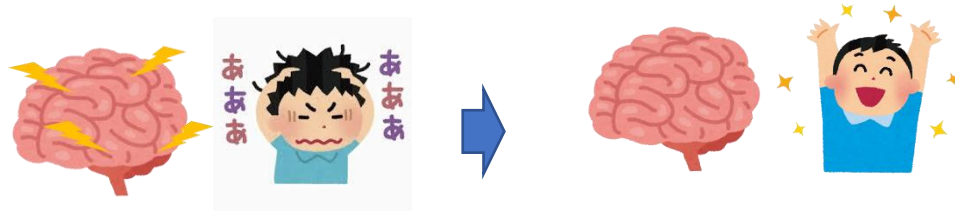
海岸の近くの駐車場は漁業従事者の作業スペースになるため、駐車禁止。大きな荷物がある場合には荷物を降ろしてから、箱浦ビジターハウスの駐車場に車を駐車する。

V. Sensory Activity のポイント：

1. Sensory Activity とは…

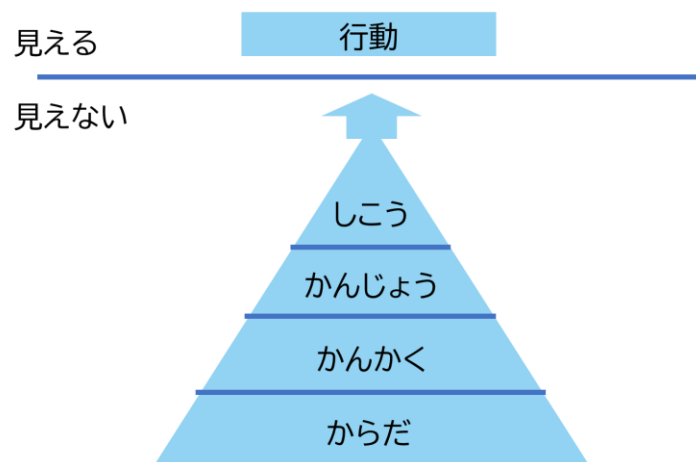
脳のストレスをリリースする手法を使って、自主的に学びを求める状態に脳を導く教育プログラム。医療福祉分野では感覚統合とも呼ばれてお

り、それを教育プログラムに応用したもの。



2. ココロとカラダと行動の関係

内臓や筋肉などを含めたカラダがあり、何かしらの感覚を受け、快や不快の感情が湧き、それに対して思考した結果、行動という目に見える結果が生じる。「不快」な状態に陥っても、自分にとっての「快」の状態を認識していると自力で「快」の状態に戻すことができるため、「快」の判断基準を自身の中に持つことができる。Sensory Activity では「不快」のリリースと「快」へのリカバリー方法を意識した教育プログラムを実施するため、自分のパフォーマンスを「常に」高く発揮できる人材が育つ。



3. 感覚の刺激による効果

Sensory Activity では「快」「不快」の感情の原因となる様々な感覚を意図的に刺激することで、脳を「快」の状態にするとしている。つまり Sensory Activity は感覚を刺激することで脳をすっきりさせて自主的に行動できる状態に導く教育プログラム。

※プログラムは専門的な知識を持った講師によって作られ、運営される。

4. 海遊びと Sensory Activity

海は多くの感覚を刺激する絶好のフィールド。但し、多くの人が集まる浜辺や、波が高すぎる危険な海岸は Sensory Activity に適しておらず、箱浦海岸のような適度に小さく、多くの人が集まらない場所が適している。

本ガイドラインではプログラムの詳細は割愛するが、興味のある方は Hako Sensory Activity に問い合わせいただきたい。

以上

助成： 日本財団（海と日本プロジェクト）

監修： NPO 法人イドバタ (idobata.pr.2011@gmail.com)

協力： 詫間漁業協同組合箱浦支部

Hako Sensory Activity (miwakitanaka@gmail.com)